

令和5年度 陵墓関係調査報告

陵墓調査室

調査の概要

当調査室では、「周知の遺跡」となっている陵墓において、保全・整備のための土木工事などを実施するにあたり、施工区域・箇所における遺構・遺物の有無を確認して、工法の決定に資する等のために事前調査・立会調査を実施している。また、「周知の遺跡」外であっても必要に応じて念のため立会を行うことがあるほか、当庁主体の工事ではない場合でも、陵墓地内、陵墓との境界線に沿った工事が行われることがあり、そのような場合も適宜立会を行うなどして対応している。令和5年度も各陵墓監区事務所や京都事務所などの関係機関と協力して調査を行った。以下、その概要を記すことにする。

〔事前調査〕 1件

1 来目皇子 埴生岡上墓（大阪府羽曳野市はびきの3丁目）整備工事予定区域事前調査

古市監区、1月～2月実施、担当：横田真吾・田中詢弥

工事予定区域に7箇所のトレンチを設定し、調査を行った。工事予定区域は、過去に羽曳野市教育委員会により実施された当墓南側外堤の調査区を北に接する位置にあたる。調査の結果、第1から5トレンチでは、外堤上面を確認した。第1トレンチでは、外堤上面東端が検出された。土層は、第1から2トレンチまで上面が地山、第3から4トレンチまで上面が盛土、第5トレンチ上面が地山となっている。第6トレンチでは、外堤と墳丘の間に溜まる水の排水を目的とした、暗渠排水溝を検出した。溝は南側の上端幅約2mで、底までの深さは約2.5mである。南側では、外堤の基盤となる地山を2.5m掘り下げ、底から0.8mまで拳大から人頭大の礫を充填し、その上を土と礫によって1.7m埋めている。北側では、地山を1.1m掘り下げ、底から1.1mまで拳大から人頭大の礫を充填していた。排水溝底面のレベルが北側断割箇所より南側断割箇所が低くなっており、周辺が取水口となっていたと考えられる。ここでは礫を厚く積み、水を取り込み易くしたと考えられる。第7トレンチでは、墳丘南辺の第1段目裾と考えられる傾斜変換箇所とそこに東西方向の貼石を検出した。貼石の石材は、二上山で採取された白色の凝灰岩である。

今回の調査により、遺物は土師器片と朝顔形を含む円筒埴輪片が出土した。器種不明の土師器小片は、第1トレンチより、埴輪片の多くは第6トレンチの排水溝埋土と第7トレンチの流土より出土した。

詳細な報告文は後掲する。

〔立会調査〕 14件

2 可愛山陵（鹿児島県薩摩川内市宮内町）外構柵改修工事に伴う立会調査

桃山監区、10月実施、担当：土屋隆史、高比良裕喜、平田一樹

掘削箇所は外構柵の基礎が設置された19箇所である。掘削箇所は長さ0.7m×幅0.5～1m×深さ0.5～0.6mである。表土下に約10cmの堆積土層があり、その下は地山層であった。

詳細な報告文は後掲する。

3 白河天皇陵（京都府京都市伏見区竹田浄菩提院町）鳥居改築工事に伴う立会調査

桃山監区、1～2月実施、担当：有馬伸、妹尾吉紹、田邊雄貴

鳥居基礎設置箇所の掘削に立ち会った。確認された土層は、上から拝所表土、拝所造成土、砂、旧耕作土、地山である。砂層は鴨川洪水時の堆積層の可能性がある。

詳細な報告文は後掲する。

4 高屋部事務所（高屋山上陵：鹿児島県霧島市溝辺町麓）修繕工事に伴う立会調査

桃山監区、2～3月実施、担当：有馬 伸、安江竜太、森沢俊哉

部事務所建屋の設備修繕のほかに、掘削が必要なものとして、給水管・排水管改修と浄化槽埋設が行われた。もっとも掘削規模の大きい浄化槽埋設箇所の基本層位は、大別して、1 現拝所表土層（白砂）、2 拝所整地土層の下は、3 黒色土層、4 明黄色土層、5 黒色土層、6 褐色土層、7 礫混淡黄褐色土層を確認した。3～6の各層は火山灰による自然堆積層で、各層間には漸移層が認められた。7層が地山と思われる。4層が鬼界カルデラの噴火による「アカホヤ火山灰層」に相当すると考えられる。北壁の断面を精査したところでは、4層で埋まる落ち込みを複数確認したが、これらは自然遺構である可能性が高い。

詳細な報告文は後掲する。

5 桃山陵墓地（京都府京都市伏見区桃山町古城山）水道管漏水修繕工事に伴う立会調査

桃山監区、1月実施、担当：川添 悟

伏見桃山東陵参拝者用公衆便所周辺の水道管漏水修繕工事箇所の掘削に立ち会った。表土、暗褐色砂質土、黄褐色砂質土、明黄褐色砂質土を検出した。いずれも便所整備時の埋め戻し土と考えられる。

6 懐良親王墓（熊本県八代市妙見町）引照点復元及び境界標識埋設替工事に伴う立会調査

桃山監区、3月実施、担当：平松大典

熊本県八代市妙見町に所在する同墓の境界標識埋設替箇所（長さ0.7×幅0.7m×深さ0.5m）の掘削に立ち会った。近現代の境界標識設置時の攪乱土層が確認された。

7 後白河天皇陵（京都府京都市東山区三十三間堂廻り）境界標識埋設替工事に伴う立会調査

月輪監区、11～12月実施、担当：平尾伸也、田中惇也

境界標識埋設替箇所（長さ0.3×幅0.3m×深さ0.6mを2か所）の掘削に立ち会った。近現代の境界標識設置時の攪乱土層を確認した。

8 高倉天皇陵及び六條天皇陵（京都府京都市東山区清閑寺歌ノ中山町）土塀修繕工事に伴う立会調査

月輪監区、3月実施、担当：田中惇也、児嶋志音

上記工事のうち、陵名石標設置箇所（高倉天皇陵：1×1m、六條天皇陵：0.8×0.8m）の掘削に立ち会った。各掘削箇所でも攪乱土層を確認した。

9 開化天皇陵（奈良県奈良市油阪町）外構柵整備工事に伴う立会調査

畝傍監区、11月～3月実施、担当：田中詢弥、香月渉、志賀陽太

コンクリートブロック塀を目隠しフェンスの外構柵に整備する箇所、排水対策の設備設置箇所の掘削に立ち会った。外構柵整備箇所のうち北側の境界線沿いでは、表土、コンクリートブロック塀構築後の盛土、コンクリートブロック塀構築前の整地土、近世の遺物を包含する橙褐色粘質土、地山を確認した。西側の境界線沿いでは、表土、コンクリートブロック塀構築後の盛土を確認した。明瞭な遺構・遺物は確認されなかった。上記調査箇所、及び排水対策の設備設置箇所でも遺構は確認されていない。出土遺物としては、磁器や土師器などがみられる。

詳細な報告文は後掲する。

10 平城天皇陵（奈良県奈良市佐紀町）駒寄石柵修繕工事に伴う立会調査

畝傍監区、12月実施、担当：長濱匡洋、芳村勇一

拝所前の駒寄石柵修繕に伴う掘削に立ち会った。掘削箇所は2箇所、西側が長さ0.4m×幅0.5m×深さ0.3m、東側が長さ0.6m×幅0.5m×深さ0.3mである。表土下から後世の造成土層が検出された。当陵築造当初の盛土や地山は検出されていない。

11 欽明天皇陵ほか（安寧天皇陵：奈良県橿原市吉田町）境界標識埋設替工事に伴う立会調査

畝傍監区、2月実施、担当：藤田 裕、玉野裕弥

件名は「欽明天皇陵ほか（ほかは安寧天皇陵）」であるが、実際に掘削が伴ったのは安寧天皇陵のみである。界30号設置箇所（陵の北東側）の掘削に立ち会った。掘削範囲は横長さ0.5m×幅0.5m×深さ0.6mである。表土下に地山と考えられる土層を確認した。

12 孝昭天皇陵（奈良県御所市大字三室）転落防止柵設置工事に伴う立会調査

畝傍監区、1～2月実施、担当：徳永真明、萩原健人

拝所前転落防止柵の基礎埋設箇所（19箇所）の掘削に立ち会った。掘削規模は長さ0.4m×幅0.4m×深さ0.65mの基礎埋設坑が19箇所である。表土の下からは、当陵の拝所造成土と考えられる土層が検出された。

13 聖徳太子磯長墓（大阪府南河内郡太子町大字太子2130）石積復旧工事に伴う立会調査

古市監区、6月実施、担当：横田真吾、坂口幸登、高橋 歩

当墓の下段結界石の石積復旧箇所（長さ約2m×幅1m×深さ0.4m）の掘削に立ち会った。地山を一部掘削し、土層断面で石積築造以前の杭跡を検出した。

詳細な報告文については、本誌本号の当墓事前調査報告内に後掲する。

14 允恭天皇陵（大阪府藤井寺市国府一丁目）外構柵設置工事に伴う立会調査

古市監区、2～3月実施、担当：須藤周太、荒木崇行

外構柵の基礎埋設箇所の掘削に立ち会った。表土、現在の土堤の造成土を確認した。

15 允恭天皇陵（大阪府藤井寺市国府一丁目）境界標識埋設替工事に伴う立会調査

古市監区、3月実施、担当：須藤周太、荒木崇行

境界標識埋設替えに伴う掘削に立ち会った。表土、現在の土堤の造成土を確認した。

なお、上記以外に、当庁主体の工事ではないものの、陵墓地内や陵墓地境界線上で実施される以下の工事に念のため立ち会った。いずれも問題ないことを確認している。

桃山陵墓地（京都府京都市伏見区桃山町古城山）外構柵の一部修繕に伴う立会

桃山監区、7月実施

民間業者が、工事の際に工作物を損傷させたことによる補償工事に立ち会った。

淳和天皇火葬塚（京都府京都市向日市物集女町出口）隣接地掘削に伴う立会

桃山監区、8～9月実施

民間業者が、開発のため境界杭の埋設替工事の掘削を行った際に立ち会った。

宇治陵3号（京都府宇治市木幡）隣接地掘削に伴う立会

桃山監区、11月実施

民間業者が、開発のため隣接地での掘削を行った際に立ち会った。

令和5年度には、上記調査以外に下記の調査も実施した。

〔災害復旧関連調査〕 1件

16 大市墓（奈良県桜井市）支障木処理工事に伴う調査

畝傍監区、7～9月実施、担当：土屋隆史、田中詢弥、池田直樹、中野裕樹

大雨による倒木発生箇所（後円部東北側の3段目斜面）の根起穴復旧に際して、当該箇所の精査を行った。根起きによる穴の大きさは、東西約2.3m、南北約2.2m、深さ約1.1mである。根起きによって葺石が露出したが、3段目斜面の葺石が倒木によって壊され、持ち上がった状態であると考えられる。葺石の一部は原位置を保っており、区画石列と考えられる縦方向に揃うように並べられた葺石も確認された。墳丘盛土中からは、土器片が数点出土した。

詳細な報告文については後掲する。

〔墳丘外形調査〕 1件

17 天武天皇持統天皇 檜隈大内陵（奈良県高市郡明日香村野口）墳丘外形調査

畝傍監区、5月実施、担当：加藤一郎、土屋隆史、田中詢弥、徳永真明、萩原健人

当陵の墳丘及びその周囲について、世界測地系に準拠して設置した基準点を用い、トータルステーションにより、スケール1/100・等高線間隔25cmの平面測量図を作成した。昭和34・36年の調査で検出された八角形墳の隅角をなす部分のコンクリート杭の位置を考慮し、八角形墳の形状を詳細に把握した。また、墳丘の表面に露出した貼石の形状と位置を記録した。

詳細な報告文は後掲する。

〔陵墓の航空レーザ測量〕 1件

18 桃山陵墓地（桃山監区：京都府京都市伏見区桃山町古城山）

宇治陵（桃山監区：京都府宇治市木幡）

泉山陵墓地（月輪監区：京都府京都市東山区今熊野泉山町）

京都市、及び宇治市内に所在する陵墓（陵墓地）のうち、上記3箇所に対して外部委託による航空レーザ測量を実施した。近年の気象状況を鑑みて、市街地と隣接、あるいは急傾斜地を含む陵墓（陵墓地）については、今後の防災対策を検討する必要があり、その基礎的データとして詳細な地形を把握する目的で行ったものである。

なお、防災の観点以外からの学術的データとしても有用であることは、様々な事例で知られているところであり、得られた地形データの所見については、次号以降に報告したい。

（清喜裕二）